

第6学年「帰り道」指導事例



1. 単元名「帰り道」

2. 単元の目標

- (1)登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。
- (2)人物像や物語の全体像を具体的に想像することができる。
- (3)自分の思いや考えが聞き手に伝わるように文章を音読することができる。

3. 単元の指導計画（全4時間）

時数	目 標	学 習 内 容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のめあてや大まかな学習計画の見通しをもつ。 ・人物像が分かるところを見つけ、二人の心情や性格などを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ①題名の「帰り道」について、自分の帰り道の様子を想起する。 ②グループごとに違う視点の文章を読む。 ③どんな出来事があったのかを確認し、学習の見通しをもつ。 ④それぞれの人物像が分かるところに線を引く。 ④それぞれの登場人物がどのような人物なのか人物像をそれぞれの視点で根拠をもとにまとめる。（ワークシートに記入）
2	<ul style="list-style-type: none"> ・会話文や心内語、情景などの叙述をもとに人物像を考えることができる。 ・視点の違いに着目し、二人の人物像をとらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①「律」と「周也」の人物像を教科書の叙述から考え、交流する。 ②視点が違うと人物像が変わることに気づき、『視点』という用語について知る。 ③場面に合わせてそれぞれの視点から、登場人物がどのような気持ちや考えだったのかを読み取る。（気持ちをグラフに表現し、考えをワークシートに書き込んでいく。）
3	<ul style="list-style-type: none"> ・「律」と「周也」の心情の変化を捉えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①場面に合わせて読み取ったそれぞれの視点からの気持ちや考えを交流する。 ②
4	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことをもとに感想を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学習したことをもとに感想を書く。（視点の違いによる感じ方の違いやその後の二人の関係など） ②感想を交流する。 ③人物像が分かるように音読する。

4, 本時について

(1) 本時の目標

- ・会話文や心内語、情景などの叙述をもとに人物像を考えることができる。
- ・視点の違いに着目し、二人の人物像を捉えることができる。

(2) 本時の展開 (2 / 4 時)

	児童の活動	教師のはたらきかけ	留意点
導入	<p>◎前時の振り返り。</p> <p>◎本時のめあてを確認する。</p>	<p>・前時は、プリントの文を読んで、会話文や思ったこと、情景などに線を引き、二人の性格等を考えたことを確認する。</p> <p>・叙述をもとに、「律」と「周也」の人物像を考えることを伝える。</p>	<p>・それぞれの視点の文を用意</p> <p>・それぞれの視点に合った人物像をまとめるワークシート</p>
	<p>課 叙述をもとに登場人物がどんな人かをまとめましょう。</p>		
展開	<p>◎「律」と「周也」、「律」から見た「周也」、「周也」から見た「律」を発表する。</p> <p>・どの叙述からそう考えたのか理由をつける。</p> <p>・班によっては、違う捉え方をしていることに気づく。</p> <p>・違う視点が配られていることを知る。</p> <p>◎ほかの班の人がもっている他視点の文章と交流する。</p>	<p>・「律」がどんな人か尋ねる。どうしてそう考えたのかも確認する。</p> <p>・「周也」はどんな人か尋ねる。どうしてそう考えたのかも確認する。</p> <p>・子どもたちの違和感を取り上げ、違う視点の文章とワークシートが配られていたことを伝える。</p> <p>・他の班の人と違う視点の文章を交流させる。</p>	
まとめ	<p>◎「視点」という用語の意味を知る。</p> <p>◎叙述をもとに、登場人物がどんな人かをまとめる。</p> <p>◎視点が違うことで登場人物の人物像がどうなるのか考えたことや感じたことを書く。</p>	<p>・「視点」という用語の意味を伝える。</p> <p>・交流したことも踏まえて、登場人物がどんな人かをまとめることを伝える。</p> <p>・視点が違うだけで、登場人物の考え方や感じ方が違うということを確認する。</p>	